

教会を聖め続け、養い育て続けて下さる主。

「だれも、自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです」：29。

主は、教会、私達の為に死に、ご自身を教会に与えられた。愛する花嫁である教会をご自身の為に聖め続けられる。過去にキリストは教会を養い育てましたではなく、今も、主は、教会を養い育て続けておられる。養い育てる事は継続的！主の死は一度限り。しかし、教会の聖化と養い育てられる恵みは継続の御業。今も進行中。

1. 主は、教会、私達を養い続けられている。霊的な食物を食べさせる、養分を供給され続けておられる。

主は、教会、私達の霊的な健康、成長、幸せに心を配られ、養い続けておられる。

「キリストご自身が、…ある人を牧師、また教師として、お立てになった」4：11。

何のため→「聖徒たちを整え（霊的に養う）」：12 するため。

整える過程は、継続的。

「奉仕の働きをさせ、キリストのからだ（教会）を建て上げるため」：12。

主が、このように教会の命を養い続けておられる恵みを、私達が、キリストの教会のメンバーとして知る事は、素晴らしい事！主は、私達、教会を愛し、配慮し、私達の必要な霊的食物を与えて下さる。霊の糧として、聖書の御言葉は、主より、御聖霊を通して与えられる。主は、私達、教会を養い続けておられる。必要な霊的な栄養、濃度が高く純度の高い栄養は、すべて聖書の中にある。

今年度の御言葉「純粋なみことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長するためです」

（1ペテロ2：2）の通りである。主が教会、私達を養って下さると考えただけで嬉しくなる。

夫は、妻や子供を愛し養う為に、主から力をいただいて働き、すべての必要を得る。

人間である夫も、責任感をもって、妻、子供達を養う為に働く。

主は、はるかに忠実に、愛をもって私達、教会を養われる。

その恵み、私達は、どれだけ感謝しているだろうか？

主が、私達を霊的に養って下さっている恵みを自覚し感謝しているだろうか？

礼拝も主の養いの一部である。主日礼拝は、人間が定めた制度ではない。神が、私達が神の恵みを忘れず覚え感謝する為に定められた安息日、主日礼拝。礼拝に来るのは、そうしなければ霊的に養われないから。私達は「養われる」為に礼拝に来る。主が、礼拝で私達に霊的な食物を与えて下さる。

主の召しがなければ、私は、礼拝メッセージする事は出来ない。主が人々を召し、聖別し、メッセージを与え、聖霊が私達の心を照らして下さる。これが、教会を養う主の方法。

2. 「育てる」。

この言葉には、衣食を与えるという事だけではなく、世話をする、面倒を見る、保護するという意味がある。

主が私達に持っておられる愛の関心や配慮について、私達が深く理解していない事が根本的な問題。

私達は、主が、どんなに私達、教会の事を愛しておられるか十分に知らない。私達に対する主の

愛を深く知るようになり始めて、やっと主を愛するようになる。

先行する愛を知り続けたい！

私達は、愛を作り出す事は出来ない。教会生活において、愛はいつも神の先行する愛への応答。

「私たちが主を愛するのは、主がまず私たちを愛してくださったから」。(Iヨハネ4：19)

主が、ご自身の愛の光を注いで下さるまでは、何もできないのが私達。主の愛を知り続けるにつれて、私達も主を、そして夫、妻、隣人を愛し始める。

主が私達の為にして下さった恵み、「養い、育てる」為に私達に与えて下さる恵みを、実際に理解して行く中で、真の愛を知って行く。その愛を知り理解して行けば行くほど、それだけ、驚き、感動し、主をそれだけ多く愛するようになる。

十字架において、主が私たちの為にして下さった恵みを知る事で終わってはならない。

そこは、私達の出発点！主は十字架の償いを成し終えた後も、驚くべき恵みを与え続け、私達の身に起こるさまざまな事柄の中で、摂理的に、私達、教会を導き守り続けて下さる。ご自身をささげて下さった教会の命を、さまざまな方法で養い育てていて下さる。これは、十字架の恵みを忘れる事ではなく、十字架の恵みに加えて、主が私達の為にして下さる働き、恵みを深く理解し続けるという事。

3. なぜ主は、ここまでなさるのか。なぜ教会の為に死に、教会をきよめて聖なるものとして下さるのか。なぜ養い育てて下さるのか。

その答えは27節で見た。

「しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです」。

私達は、目先の事だけを見てはいけない。主の御業の目的、今もなし続けておられる究極の御目的は、私達、教会の「栄化」＝主の御姿への完成。この栄化の為に、主は、私達を毎日、毎週、毎月、年ごとに養い育てておられる。キリストの教会の会員である事は、どんなに大きな特権（主が救い、養い、育て続けてきよめられる）を与えられているか自覚しているだろうか。

私達は、婚約をする女性のように感じるべき。素晴らしい主に直接お会いする再臨の日、霊的な結婚の日を待ち望み、その日を楽しみに生きる。この日を自分の生活の中心に置く。この日を喜び待ち望みつつ生きる。

祈り：私達の罪の為に主の十字架の愛、恵みを感謝します。

十字架の完全な贖いの恵みで終わりではなく、霊的な牧草、御言葉で、私達、教会を養い育て続け、聖め続けておられる恵みを感謝します。

「みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中において御国を継がせることができます」使徒20：32。

「わたしを通して入るなら、救われます。また、安らかに出入りし、牧草（霊の糧の御言葉）を見つけます。…わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。…良い牧者は羊のためにいのちを捨てます」ヨハネ10：9－11